



勝利の絆

巻末特集

カーブ応援がまちの活力に

Special feature SHO-RI no kizuna



プロ野球2010年シーズンが開幕しました。みんなで球場へ行きませんか？平成17年、「カーブを支えたい」と始まった庄原市カーブ応援隊。毎試合バスで球場に繰り出し、外野スタンドから熱い声援を送っています。一方で、カーブの応援やカーブとの交流がまちの活力になっています。「カーブは地域の宝」。この5年間の交流や連携を振り返ります。

庄原市カーブ応援隊を結成

平 成16年秋、広島市民球場(中区)に替わる新球場建設を目指す「たる募金」が、庄原市でも始まりました。当時は、オリックスと近鉄の合併に端を発した球界再編問題、リーグ構想など、カーブの存続に対する不安も広がっていました。「たる募金でお金を集めるだけじゃ

あいけん「新球場が建っても、応援に行かんかったらカーブは潰れる」「一番大事なのは、球場へ行って応援することじゃないか。」

こういう声が出始め、庄原市観光協会を中心に、商工会議所、郷心会、市の4者が発起人となり、官民一体となって「庄原市カーブ応援隊」を結成。外野スタンドの年間指定席を40席購入し、広島市民球場で行われる全試合に庄原市から応援に行くことを決めました。

地元バス会社が支援

参 加費は、庄原市から広島市への往復バス代と観戦チケットがセットで、3千円でスタート。バスの往復料金3620円よりも安く、しかもプロ野球が観戦できるという魅力的な料金設定にしました。地元バス会社と協議し、試合が延長になっても時間を心配しなくていい

よう貸切バスを運行。参加人数が少ない場合は、庄原市と広島バスセンターを結ぶ路線バスを利用し、運行リスクを回避する仕組みを考えました。また、観戦ツアーの一番手間な予約業務も、そのノウハウを持つバス会社が担うことになりました。「他の地域が真似できない理由は、バス会社の存在が大きい」と市商工観

光課の前田忠範係長。地元バス会社の全面的な支援で、「観戦ツアー」がスタートしました。



貸切バスで「観戦ツアー」

昨年の稼働率は99.5%

赤 いジャンパーを着て、庄原シートを真っ赤に染めよう」を合言

葉に、応援隊のメンバーが声をかけ、観戦ツアーをPRしました。当初、「テレビで見たほうがいい」「どうせ行くんなら内野席がいい」という声が多かったものの、実際に行ってみると「大声で応援してスカッとした」「外野席で応援したほうが楽しい」と、徐々に参加者が増えていきました。初年度のツアー参加者は年間1675人、2年目は1927人、市民球場最後の年となる4年目は2172人と着実に実績をあげ、新球場元年の5年目は稼働率99.5%を超える2666人が参加しました。「昨年、新球場になって参加者から間違いなく出てくる言葉が楽しかった。また行きたい」。こう話すのは事務局長の山根英徳さん。「観戦ツアーがいつぱいで断ることも多く、別に貸切バスを用意したり、他の席にも座ってみたいと個人で観戦に行ったり、4

千人を超える市民が球場に足を運んだと感じています」。

一体感の醸成、住民の親睦

観 戦ツアーが始まった平成17年は、ちょうど市町村合併の年でした。合併する1市6町が、カーブの応援を通して心をつなにし、「新庄原市」の一体感の醸成も図りたい。関係者にはそんな思いもありました。西城の日、東城の日など、各地域の日を設定し、その地域発着の観戦ツアーを設けました。また、地域である程度の人数がまとまれば、その地域発着でバスを運行することができ、年々、地域や団体による利用が増えています。高自治振興区は2年前から、地域住民の親睦を兼ねて観戦ツアーを行っています。「地元発着だから車の運転をしなくてもいい。安心してアルコールを飲んで、近所の人とワイワイ野球が楽しめる。本当に便利」。年間2回の観戦ツアーを今年は3回にしてほしいという声が上がっています。

また、庄原市シルバー人材センターでも、カーブ応援隊を結成するなど、応援の輪が広がっています。

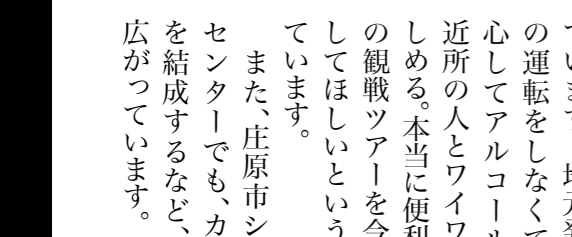
球場で庄原市の魅力をPR



庄原市・日南市・由宇町の3地域が球場で合同販売

庄 原市カーブ応援隊の大きな目的は2つ。一つは、球場でカーブを応援すること、もう一つは、球場で庄原市の映像を放映してもらったり、球場で庄原市特産品を販売したり。「庄原市ってすごい」「いいまちだね」という声が、観客から聞かれるようになりました。

カーブは最高の広報媒体。カーブとの交流や連携のたびに、マスコミに取り上げられ、庄原市の露出度が格段に上がってきています。また、カーブのホームページに、庄原市カーブ応援隊のバナー広告を載せているのも異例。カーブの応援を通して、庄原市への観光客の増加や、特産品の販売増にもつながっていきたいと期待をしています。





カーブが庄原市を支援

原市がカーブを応援する一方で、カーブも庄原市を応援しています。

「庄原市カーブ応援隊が年間指定席を40席買ってくれると聞いた時は、今までで一番の感激でした」と振り返る松田元オーナー。「当時は1リーグ構想がおさまり、これからどう経営をしていけばよいか、一番苦しい時でした。」



子どもミュージカル副実行委員長 片岡佐和子さん

球場でのパフォーマンスが宝に

「子どもたちのいい笑顔がみたい」に共感していただき、カーブから子どもミュージカルに対して信じられないような支援をいただいています。その中でも、球場での踊りの披露は、子どもたちにももちろん、その家族にとっても、特別な宝物を与えられたと思っています。松田オーナーとお話をする際、いつも庄原市民以上に庄原市を愛してくださっていると感じます。その思いや支援に恥じないような活動や発信をこれからもしていきたいと思っています。」

【インタビュー】

全国でたる募金をしてもらいました。が、球団にとって一番うれしい応援は席を買っていただくこと。県内で広島市から一番遠いにもかかわらず、庄原市の人たちはそれを選択してくれました。苦しい時に差しのべられた手は、誰も忘れることができません。」

実は、球団創設期で経営が苦しかった時代、庄原市名誉市民で元県議会議長の西田修一さんが、県教育委員会で年間指定席を購入し、カーブを支えてくれたというエピソードを、松田オーナーは父親から聞いて育ちました。



吉田麻衣さん(上原町)

カーブ特製色紙に感激

広報紙で「カーブ特製色紙がもらえると知り、息子(真太)が生まれる前から楽しみで、実際にいただいた時には本当にうれしかったです。また、色紙用写真の無料撮影券もいただき、家族みんなで撮影に行きました。撮影した写真で携帯ストラップも作り、常に持ち歩いています。一生のいい記念になりました。男の子なので将来は野球をやっけてほしいと思いますし、子どもと一緒に球場でカーブを応援することが今から楽しみです。」

◎ 庄原市の発展に貢献したい

広島東洋カーブ 松田元オーナー



◎ 共に発展できる交流を続けたい

庄原市カーブ応援隊 塩本誠二 実行委員長



「庄原市への感謝の気持ちはずっとありましたが、再びこのように庄原市の人にお世話になり本当に驚いています。一方的に応援に来てくださるのではなく、庄原市のPRをはじめできることは何でもしたい」と話します。

庄原市のPRや特産品販売をはじめ、子どもミュージカルへの支援、誕生記念色紙の贈呈、庄原市への多額の寄附、男女の出会い事業への支援、グッズの提供、よいと祭りや広島県雪合戦大会への参加など、数多くの支援を受けています。



ホームランのバットを育てようと、カーブ選手と一緒にバットの原料となるアオダモなどを総領町「なかつくに公園」に植樹



球場で笑顔いっぱいのパフォーマンス(子どもミュージカル)

広がる交流 強まる絆

原市カーブ応援隊がきっかけになって、松田オーナーをはじめ、監督、選手らが庄原市を訪れ、地元ファンと交流する機会が増えました。また、二軍の練習場がある山口県由宇町やカーブのキャンプ地日南市との交流や、カーブOBとの交流、市内業者による新球場スポーツバーの施工や、カーブ激辛キムチの製造など、さまざまな交流や連携が生まれています。

昨年、市役所新庁舎と新球場の完成を記念し、平成21年生まれの新生児279人にカーブ選手特製「誕生記念色紙」が贈られました。全国でも例のない、自治体とプロ野球球団とのコラボレーション事業としてマスコミにも大きく取り上げられたほか、市民にも好評で出生数増加の弾みになりました。

地元写真家協会が協賛し、色紙用写真の無料撮影プレゼントも行われ、今シーズンの開幕には、撮影した赤ちゃんの写真を球場内に飾りました。「将

カ

ーブが市民球団として地域に根づいていくために、「2WAY」(双方向)が大切だと考えています。ファンや地域の方の知恵や要望を生かし、球団側も支援や協力をお願いします。そのことが地域に活力を生んだり、地域と地域、世代と世代を結んだりすることができると思います。

その中でも庄原市は、私にとって特別な地域です。父親の代から苦しい時に支援していただき、今回こうしてお付き合いさせてもらって、球団としても幸運だと感じています。これからも

庄

原市カーブ応援隊が購入する年間指定席代は400万円ですが、カーブ球団には、それをはるかに超える支援を庄原市にしていただいています。また、松田オーナーに「〇

〇ができませんか?」とお願いに行くのができる」と、付加価値をつけて逆に提案をいただいています。カーブとのつながりの中から生まれたものも多く、本当に感謝しています。松田オーナーのこの気持ちに込めるために、お互いにメリットを共有できる企画を考え、共に発展できる交流を続け

ていきたいと思っています。

今後の庄原市カーブ応援隊の運営については、財源をどういうカタチで確保していくのが課題となつていきます。企業スポンサーに依存できない今、個人協力の額を下げるなど、市民の応援が増えるいく方法を考えていきたいと思っています。そのためにも、市民の皆さんが喜んで参加し、協力金も出したいと思えるように、庄原市とカーブの一体感、絆の強さをPRし、さらなる元気を生み出す活動を末永く継続していきたいと思っています。